



大和田南小での制作の様子

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、2015年に国連で採択された、世界共通の目標のことです。2030年までに、17の目標と169のターゲットを達成しようというものです。「誰一人取り残さない」という理念のもと、未来も含めて、地球上に生まれた誰もが、自分らしく幸せに暮らし続けることを目指しています。お問い合わせは教育委員会指導課 電話481-0301へ

SDGs達成度ランキング

国連と連携する国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (SDSN)」が、6月2日に世界各国のSDGsの達成状況をまとめた報告書を発表しました。第1位は2年連続でフィンランドです。第2位はデンマーク、第3位はスウェーデンと、上位3か国を北欧の国が占めています。

フィンランドでは、電力供給の90%がCO₂を排出しないグリーンエネルギーで、CO₂排出量の削減に貢献しています。

デンマークでは、賞味期限が近い余剰食品を、スマホアプリを介して低価格で提供することで、廃棄する食品ロスをなくす取り組みを進めたことで、5年間で食品ロスを25%削減しました。

スウェーデンでは、ごみの分別が100種類あるといわれ、家庭ごみのリサイクル率が99%となっています。

日本の順位は、残念ながら19位となっています。日本が、「達成済み」と評価されたのは、17の目標のうち目標4「質の高い教育をみんなに」、目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、目標16「平和と公正をすべての人に」の3つだけでした。もちろん日本でもSDGs達成に向けて様々な取り組みを行っているところですが、まだまだできることがあります。

SDGsの目標年限である2030年まで残り8年となりました。国家レベルの取り組みだけでなく、企業・団体の取り組みや、個人レベルの意識改革にもSDGsの達成は委ねられています。

できることからSDGs

「SDGsってよく聞くけど、何をしたらいいの?」と思う人も多いのではないのでしょうか。実は、私たち一人ひとりのちょっとした行動が、SDGsの目標達成につながっているのです。ここで皆さんにSDGsに関するクイズです。

次の8つの行動のうち、SDGsにつながる行動はどれでしょう?

- ①買い物にマイバッグを持参する
- ②すぐ食べるなら賞味期限の近いものを買う
- ③ペットボトルは資源ごみに捨てる
- ④冷蔵庫はすぐに閉める
- ⑤車ではなく自転車や徒歩で移動する
- ⑥電気をつけっぱなしにしない
- ⑦シャンプーがなくなったら詰め替える
- ⑧エアコンは使いすぎない

クイズの正解は8つ全部です。大きなことに取り組むのではなく、今日から簡単に取り組めることがあると思います。一人ひとりが、「これってSDGsかも」と思う行動を心がけることが、目標の達成につながります。

八千代市の取り組み

八千代市立小学校、中学校、義務教育学校では、ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な社会の担い手を育む教育) の推進に取り組んでいます。ESDは、2019年の国連総会で「SDGsの成功への鍵である」と認められ、目標達成のためには欠かせない教育とされています。

地球規模の課題を、他人事ではなく自分事としてとらえ、身近なところから課題解決に取り組める人を育てる教育を進めています。

ASPnet (Associated Schools Project Network) は、ユネスコの理念を学校現場で実践するために発足した国際的なネットワ

ークです。近年では世界182か国で、11,500校以上が加盟して、活動しています。

ASPnetへの加盟が承認された学校を、「ユネスコスクール」と呼び、ユネスコスクールはESDの推進拠点として位置付けられています。

本市では、大和田南小学校が、平成30年7月に八千代市で初めてユネスコスクールに認定され、ユネスコスクール認定に向けた取り組みを進めている学校が増えてきています。

大和田南小学校では、ESDの一環として、アートマイル国際協働学習プロジェクト (一般財団法人ジャパンアートマイル主催) に参加しています。本プロジェクトは、インターネットを使って、「貧困」、「教育」、「平等」など、世界共通の課題について対話的・協働的に学び合い、学習の成果として世界に訴えるメッセージを込めた壁画を共同制作する学習となっています。

3年度は、台湾の学校とのプロジェクトに取り組み、絵の左上半分を大和田南小学校の6年生が描き、航空便で絵を輸送し、残り右下半分を台湾の児童が描いて1枚の絵を完成させました。絵には、「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」というメッセージが込められています。

地域と世界を関連付けながら共通の課題を発見し、多様な文化背景を持つ人たちと協働して、より良い解決策を探る力や、新しい価値を生み出す力を育てています。



▲大和田南小学校6年生と台湾の児童が協働して1枚の絵を完成させました

広告

広告